

研究誌『ことば』投稿について

1. 投稿資格

投稿できるのは会員のみです。

2. 査読

投稿論文の査読は以下の要領でおこないます。

- ① 投稿者は会員のだれかに指定査読者（論文完成へ向けての助言をおこなう役割を負う査読者）になってもらう。なお、指定査読者になってほしい人への依頼は投稿者がおこなうのが原則である。
 - *だれに指定査読者になってもらえばよいかわからないばあいは、編集担当が論文内容に応じて候補者を紹介する。
 - *ひとりの指定査読者の引き受ける査読件数は原則2件まで。
- ② 査読委員会（編集係+代表・副代表）を招集する。
- ③ 指定査読者1名のほかに、査読委員会で1論文につき1名の匿名査読者を指定する。
- ④ 査読は指定査読者（1名）と匿名査読者（1名）でおこなう。
- ⑤ 査読者は「採用」「不採用」「条件つき採用」で判断し、結果を査読委員会に伝える。
- ⑥ 査読委員会は、査読結果により下記の対応をし、結果を査読者と投稿者に連絡する。
 - ・2名の査読者が「採用」あるいは「条件つき採用」のばあい、指定査読者が投稿者とやりとりし、論文作成のモニターをおこなう。
 - ・2名の査読者が「不採用」のばあい、査読委員会経由で不採用の結果と理由を伝える。
 - ・2名の査読者の結果が「採用／不採用」で割れたときは査読者2名および査読委員会で検討し、査読結果を確定する。

3. 刊行のスケジュール

およその刊行スケジュールは以下のとおりです。

- 7月末 … 執筆者募集締め切り
- 8月末 … 原稿（第1次原稿）提出締め切り／その後、査読
- 9月半ば … 査読結果通知
- 10月半ば … 修正原稿（第2次原稿）提出締め切り
- 11月～12月初旬 … 編集作業
- 12月31日 … 『ことば』発行

4. 執筆要項（2024.6改定）

4. 1 書式

- ・ A4横書き 34字×29行
- ・分量：18ページ以内（厳守）
- ・1ページ目の論文表題、執筆者名には5行あてる。
- ・要旨：300～400字
- ・キーワード：5語以内
- ・執筆者名の仮名表記と所属を末尾に（ ）に入れて記す。仮名表記はひらがなでもカタカナでも可。所属は記さなくても可。
- ・図表・注・参考文献・参考資料なども分量の範囲に入れる。
- ・文字・行の縮小は図表や資料に限る。
- ・本文での算用数字の表記は、1ケタの数字は全角、2ケタ以上の数字は半角とする。
- ・章番号、節番号や小見出しのつけかたなどは前号を参考にする。

4. 2 参考文献

- ・和文参考文献、外国語参考文献の順にあげる。
- ・同著者名がつづくばあいも、著者名を省略せず記す。
- ・同著者の文献は発表年の順にあげる。同じ発表年の文献が複数あるばあいは、発表年に a、b…を付してあげる。
- ・文献名が2行以上になるばあい、2行目以降は5字下げる。

(1) 和文参考文献：著者・編者名の五十音順にあげる

- ・単行本のばあい

著者・編者名（出版年）『書名』出版社名

〔例〕遠藤織枝（1997）『女のことばの文化史』学陽書房

〔例〕金子幸子・黒田弘子・菅野則子・義江明子編（2008）『日本女性史大辞典』吉川弘文館

翻訳書のばあいは、著者名は「姓、名」とし、出版年のあとに訳者名を記す。

〔例〕モリスン、トニ（1994）大社淑子訳『白さと想像力』朝日新聞社

- ・論文のばあい

著者名（発表年）「論文名」『掲載誌名』巻号 ページ 発行機関名

〔例〕小矢野哲夫（2004）「暮らしの中にひそむ日本語とジェンダー」『日本語学』23-7 pp.56-62 明治書院

著者名（発表年）「論文名」編者名『書名』ページ 出版社名

〔例〕小林美恵子（1997）「自称・対称は中性化するか？」現代日本語研究会編『女性のことば・職場編』pp.113-137 ひつじ書房

- ・インターネット情報のばあい：URL と閲覧年月日をあげる

[例] 文化審議会答申（2007）『敬語の指針』http://www.bunka.go.jp/seisaku/bunkashingikai/sokai/sokai_6/pdf/keigo_tousin.pdf（2024年5月10日閲覧）

[例] 道浦俊彦（2016）「バトンパス」『新・ことば事情』<http://www.ytv.co.jp/michiura/time/2016/08/post-3328.html>（2024年5月31日閲覧）

(2) 外国語参考文献

(2-1) 欧文参考文献：著者・編者名の姓のアルファベット順にあげる

- ・単行本のばあい

著者・編者名（出版年）書名. 出版地名：出版社名.

[例] Labov, William (1972) *Sociolinguistic Patterns*. Philadelphia: University of Pennsylvania Press.

翻訳があるばあいは、以下のように翻訳書の情報を（ ）に入れて記す。

[例] Lakoff, Robin (1975) *Language and Woman's Place*. New York: Harper & Row.
（かつえ・あきば・れいのるず訳 1990 『言語と性 英語における女の地位 [新訂版]』有信堂高文社）

- ・論文のばあい

著者名（発表年）論文名. 掲載誌名, 巻号, ページ.

[例] Smith, Janet S. (1992) Women in Charge: Politeness and Directives in the Speech of Japanese Women. *Language in Society*, 21, pp.59-82.

著者名（発表年）論文名. In 編者名 (ed./eds.), 書名. ページ. 出版地名：出版社名.

[例] Abe, Hideko (2004) Lesbian Bar Talk in Shinjuku, Tokyo. In Okamoto, Shigeko and Janet S. Shibamoto Smith (eds.), *Japanese Language, Gender, and Ideology: Cultural Models and Real People*. pp.205-221. Oxford: Oxford University Press.

(2-2) 中国語参考文献：著者名の姓のピンイン順にあげる

- ・単行本のばあい

著者・編者名（出版年）《書名》出版地名：出版社名

[例] 朱德熙(1982) 《语法讲义》北京：商务印书馆

- ・論文のばあい

著者名（発表年）〈論文名〉《掲載誌名》巻号 ページ

[例] 曹逢甫（2006）〈語法化輪迴的研究——以漢語鼻音尾/鼻化小稱詞為例〉《漢

語學報》2 pp.2-15

著者名（発表年）〈論文名〉編者名《書名》ページ 出版地名：出版社名

[例] 連金發（1998）〈台灣閩南語詞綴“仔”的研究〉黃宣範編《第二屆台灣語言國際研討會論文選集》pp.465-483 台北：文鶴

(2-3) 韓国語・朝鮮語参考文献：著者名の姓のカナダラ順にあげる

・単行本のばあい

著者・編者名（出版年）書名，出版地名：出版社名

[例] 이익섭（1994）사회언어학，서울：민음사

・論文のばあい

著者名（発表年）論文名，掲載誌名 巻号 ページ

[例] 장소원（2008）현대국어의 생략 부사어，국어학 52 pp.55-84

著者名（発表年）論文名，編者名（편），書名 ページ 出版地名：出版社名

[例] 백경숙・김용진（2000）언어와 문화，황적륜（편），현대 영어교육의 이해와 전망 pp. 327-361 서울：서울대학교 출판부

(3) 本文中で参考文献に言及するばあい

・文中では、「著者姓（出版・発表年）」とする。ページを記すばあいは、「著者姓（出版・発表年：ページ）」とする。

[例] 安田（2012）は～ / 小川・沢口（2023：130-132）によれば～

・文末などでは、著者姓と出版・発表年（とページ）を（ ）に入れて記す。

[例] ～とされる（山口2003）。 / ～である（中川2011、田村2022）。 /

「～」（木下2021：35）と述べる。

5. 著作権

論文等を『ことば』に掲載することによって、現代日本語研究会がその著作物の著作権を所有することにはなりません。掲載された著作物の著作権は、著者に帰属します。ただし、著者はその著作物を、現代日本語研究会が会誌『ことば』に掲載し、J-Stage上で公開する権利を認めたものとします。著者が『ことば』に掲載された論文等をそのまま改変せず利用するばあいには、掲載誌情報を明記してください。